

生理・生化学用語辞典

J. Stenesh 著

増田 芳雄

中村 一 連

加藤 憲 一

・ 稲 村 隆

神阪盛 一郎 訳

化 学 同 人

増田 芳雄

1953年 京都大学理学部植物学科卒

現在 大阪市立大学教授(理学部)

専攻 植物生理学

理学博士

中村 蓮

1958年 京都大学大学院理学研究科修了

現在 甲南大学教授(理学部)

専攻 分子遺伝学

理学博士

加藤 憲一

1955年 京都大学大学院理学研究科修了

現在 大阪教育大学教授(教育学部)

専攻 動物発生学

理学博士

福村 隆

1961年 京都大学大学院理学研究科修了

現在 大阪市立大学助教授(理学部)

専攻 細胞生物学

理学博士

神阪盛一郎

1966年 大阪市立大学大学院理学研究科修了

現在 大阪市立大学助教授(理学部)

専攻 植物生理学

理学博士

生理・生化学用語辞典

1982年5月20日 第1版 第1刷 発行

訳者 増田 芳雄
代表

発行者 曾根 寿明

発行所 (株)化学同人
京都市山科区西野野色町5-4
郵便番号 607
電話 075-592-6649(代)

印刷 (株)太洋社

製本 大日本製本紙工(株)

検印廃止

C. Y. Masuda, H. Nakamura, K. Kato,
T. Fukumura, S. Kamisaka 1982

Printed in Japan

ISBN 4-7598-0086-7

著者序文

本辞典は生命科学を専攻している研究者や学生の方々に、生化学用語について参考にしてもらうためにまとめたものである。ここには1962年以降に発行されている200以上の各種教科書、参考書、あるいは生化学関係の学術雑誌に引用されている文献から選んだおよそ12,000の見出し語を収録してある。また、この中にはIUPAやIUB生化学用語委員会の推せんする術語も入っている。

ここに収録した見出し語を選ぶさいここで考慮した生化学用語のもつ特徴について以下に説明しておきたい。その特徴の一つは、他の分野で用いられている用語を広く採用したことである。すなわち、生化学という分野はもともと、その関連分野に著しく依存している。したがって、本辞典にも、これら他の分野の用語を多く収録することが必要であった。本辞典がそういう意味で、とくに多くの用語を採用した分野は、化学、免疫学、遺伝学、ウイルス学、生物物理学、あるいは細菌学である。第二の特徴は、本辞典では標準的な、あるいは従来まだ標準化されていなかった多くの略語を収録したことである。これら多くの略語は生化学の分野の文献を読むときに読者が参考にできるように、また、まだ標準化されていないものは将来標準化されるものと考え、ここに収録したわけである。第三の特徴は、多くの同義語を収録したことである。これらの同義語は、たがいにわずかしき意味上の違いをもたないものが多い。ある用語とその同義語である他の用語の違いは読者にとってあまりはっきりしないことが多いと考えられるので、収録したおもな同義語的表現は相互参照できるようにしておいた。

また、最近生化学の分野で新しく使われるようになった用語も収録し、あまり使われないようになった用語は、少数の歴史的興味のある例外のほかは削除した。特殊な化合物、その他の物質名を収録することはきわめて重要であるが、この点に関し、とくに収録洩れがないよう努力することはしなかった。本辞典にとりあげた用語は一般には簡潔に定義するようにしたが、くわしく定義する必要のある語も加えた。しかし、包括的、百科辞典的な説明を加えることは意識的に避けた。

ここに私はI.H. シーゲル、L.D. シーゲル両博士に対し、原稿をくわしく読んで下さったことに対し謝意を表したい。また、W.I. の編集者M. コンウェイ、R. バジャー両博士には本辞典作製に対する努力と有益な示唆に対し感謝する。また、西ミシガン大学化学教室の秘書、J. スプリンガー、J. ジェレミー両夫人には、本原稿をタイプして下さいましたことに対し感謝する。

私はまた、とくに私の妻マーベルに対し、辞典編集の方法などについていろいろ注意を与えてくれたり、辞典の体裁などについて適切な助言をくれたことに対しここに謝意を表明したい。そして、何よりも、彼女と私の息子アランがこの仕事の間、彼らにかけたいろいろな面倒を快よく甘受してくれたことが本辞典の完成に大変な助けになったことをここに記して感謝したい。

J. スティーネッシュ

ミシガン州カラマズーにて

1975年 4 月

訳者序文

近年における自然科学の進歩はめざましく、生化学や生理学もその例外ではない。各分野の研究報告を掲載する学術雑誌の種類は多く、発行頻度は高い。また単行本も数多く発行されている。すなわち、生化学、生理学における情報は年とともに豊かになり、今や情報収集とその整理が研究遂行の重要な鍵となっている。若い学徒が研究し、研究を遂行するさい、情報収集と整理に助けとなる専門語辞典を必要とすることはいうまでもないが、従来この目的にそう適切な生化学・生理学辞典は世に出ていなかった。

最近、西ミシガン大学の J. Stenesh 教授の手になる “Dictionary of Biochemistry” が John-Wiley and Sons 社から出版され、化学同人からその邦訳の相談がもちかけられた。私たちは、この辞典をただ日本語に訳して出すより、原著をそのまま利用するほうが便利であろうと考えたが、化学同人はこの辞典の邦訳をぜひ出版したいと希望した。そこで私たちと化学同人の話し合いの結果、次の2点を条件として本辞典の邦訳を出すはこびになった。すなわち、(1) 用語の発音記号を示すこと、(2) 植物学、動物学、微生物学の分野の用語を補足し、物理化学的なものを省くこと、であった。

従来いくつかの生物学あるいは化学の分野の辞典類が出版されているが、その利用価値はかなり制限されている。それは、用語の発音が表示されていないからである。生物学や生化学の用語で発音のわからないもの、あるいは間違った発音が慣用されているものがあまりにも多く、このため外国人学者と話しをする場合に不便を経験する研究者は多い。したがって、本辞典の邦訳に当っては用語の発音記号を示すことを特色の第一とした。

本辞典の見出し語は生化学といってもかなり片寄りがあるように思われた。それは Stenesh 教授の個人的な傾向のためかもしれないが、より広い読者層に利用していただくため、訳者らが相談し、訳者それぞれの専門分野に関する用語で必要と思われるもの約 200 語を補足した。また同時に、生化学あるいは生理学にほとんど関係のないと思われる物理化学的用語をかなり省いた。これらの追加および削除に関しては原出版社の承認を得た。

さて、この作業を終えて思うことは、辞書の翻訳は実にむづかしい、ということである。短い文章に多量の意味を含ませ、濃縮してある文章を、邦文になおすことのむづかしさは、想像以上であった。このような理由から、われわれは、外国の文献を読むときの辞典の重要性を十分認識して作業にあたったつもりではあるが、まだ不注意な点が残っているのではない

かと恐れている。読者からのご指摘が得られれば幸甚である。

現実の生物学界では、一つの専門用語が幾通りもの日本語に翻訳されており、しばしば混乱が感じられる。そこで、本書では、このような混乱を減らすために、「生物学辞典(第2版)」(岩波)に採用されている訳語を標準にして統一をはかった。しかし、この辞典に記載されていない用語、あるいは他書に採用されている訳語のほうが適切であると思われた用語については、その用語をあてるか、あるいは両者を併記した。このように、本書に用いている訳語は、すでに世に出ている次のような辞典類から採用し、新しく造語することを極力おさえた。

「理化学辞典(第3版増補版)」(岩波), 「医学英和大辞典(第10版)」(南山堂), 「医学大辞典(第15版)」(南山堂), 「図解解剖学事典(第1版)」(医学書院), 「遺伝学辞典」(共立出版), 「生物学用語辞典(第1版)」(三共出版), 「微生物学用語集」(日本細菌学会)

元来、辞典は独自の秩序を有する小宇宙であるといわれる。多くの苦労はあったが、このたび、ようやくにしてでき上がったこの小宇宙を世に送り出すことになった。理学、医学、農学、および工学の学生や研究者諸氏にとって、これが発展の跳躍台となればと念じつつこの序文を終わる。

最後に、用語の発音記号は諫早高校中尾勘吾氏の労をわずらわしたが、主としてランダムハウス方式を採用した。しかし、さらにウェブスター方式を参照し、野ロジュディー氏に全面的チェックをお願いした。その労に心から謝意を表したい。

用語の邦訳に当っては多数の先輩・同僚の方々に相談し、多くの有益な助言を得た。ここに厚く御礼申し上げる。

本辞典の邦訳、出版に当っては、当初からねばり強く計画を推進し、また項目並べ、発音記号のチェックをおこない、また怠惰な訳者らを鼓舞激励して下さった西口守氏をはじめとする化学同人編集部の方々の努力と情熱に深く感謝する。

1982年3月

増田芳雄ほか
訳者一同

凡 例

第1部(英和の部)

英語を見出し語とし、発音記号をつけ、日本語で説明を加える英和辞典の形をとった。

見出し語について

- 1) 配列はアルファベット順とした。
- 2) 原則として単数表示としたが、複数形が特有の変化をする場合には
spectrum (*pl. spectra*)
のように()に入れて示した。
- 3) 同意義の用語、参照すべき関連のある用語について文末に→で指示した。
- 4) 最近の学問の進歩に合わせ、原著以外の用語を補充し、その用語には

blastomere*

のように、*印をつけて区別した。

発音記号について

- 1) 「小学館ランダムハウス英和大辞典」の米音に準拠した。
- 2) 見出し語の後に
absorbance [æbsɔːrbəns]
のように[]に入れて示した。
- 3) 発音が2つ以上ある場合には、例外を除き、そのうちの1つを選んで記した。

9)

第2部(和英の部)

日本語に英語(第1部の見出し語)を対応させ、その所在をページ数で示した。

- 1) 配列は五十音順とした。ただし、化学物質名で結合の位置を示す1, 2, …やN, Oなどは配列の上では無視した。また頭に英文字のつく用語、たとえばA鎖, Zスキームなどはそれぞれえ, せのはじめにおいた。
- 2) 第1部の訳語が2つ以上ある場合、各訳語を見出し語としてあげ、それぞれからたどりつけるよう配慮した。
- 3) 訳語に対応する英語が2つ以上ある場合には、説明文のあるほうを先に出し、

切断 scission, incision 307, 163

系統発生 phylogeny, phylogenesis 259, 259

のように、対応する英語の順にページを付した。

- 4) 見出し語の一部が、たとえば腫瘍、腫瘍遺伝子、腫瘍抗原のように重複して煩雑な場合には

腫瘍

——遺伝子

——抗原

のように——を用いて略記した。

第1部

英和の部

A

A 1. adenine アデニン; 2. adenosine アデノシン; 3. absorbance 吸光度; 4. angstrom unit オングストローム単位; 5. mass number 質量数; 6. alanine アラニン; 7. Helmholtz free energy ヘルムホルツの自由エネルギー; 8. ampere アンペア.

Å angstrom unit オングストローム単位.

AA amino acid アミノ酸.

AA-AMP aminoacyl adenylate アミノアシルアデニル酸.

AAN amino acid nitrogen アミノ酸窒素.

AA-tRNA aminoacyl transfer RNA アミノアシル転移 RNA.

AA-tRNA^{AA} aminoacyl transfer RNA アミノアシル転移 RNA: 接頭の AA は転移 RNA に結合しているアミノアシル基を, 右上の AA はこの転移 RNA に特異的なアミノ酸を表す.

Ab antibody 抗体.

ABA abscisic acid アブシジン酸: → dormin.

A band [bænd] A 帯: 横紋筋の筋原線維の電子顕微鏡標本にみられる横紋暗帯で, 厚・薄線維(フィラメント)からなる.

Abbe refractometer [ˈæbə rɪːfræktámɪtər] アッペ屈折計: 溶液の屈折率を直接測定できる屈折計.

ABC antigen binding capacity 抗原結合能.

aberration [æbəreɪʃən] 染色体異常: → chromosomal aberration.

abetalipoproteinemia [ɛɪbətəlɪpəprəʊtɪnɪˈmɪə] リボタンパク質欠損症, 有棘血球症: ヒトの遺伝的代謝欠陥で, 低密度リボタンパク質を全く欠くか, 減少が特徴.

abiogenesis [ɛɪbaɪəʊdʒɛnɪsɪs] 1. 無生物的合成: 非生物的に物質が形成されること; 2. 自然発生: 生物が非生物物質から偶然に発生したとする学説.

abiogenetic [ɛɪbaɪəʊdʒənɛtɪk] 自然発生の, 自然発生に関する.

abiogenic [ɛɪbaɪəʊdʒɛnɪk] 非生命の, 自然発生の.

abiological [ɛɪbaɪəʊlɔdʒɪkəl] 無生物的: 非生命の, 非生命に関する.

abiosis [ɛɪbaɪəʊsɪs] 無生物性: 生命のないこと.

abiotic [ɛɪbaɪəʊtɪk] 非生命の: 無生物性の.

abnormal hemoglobin [æbnɔːrməl hɛməgləʊbɪn] 異常ヘモグロビン: 正常なヘモグロビンとアミノ酸配列の異なるヘモグロビン.

ABO blood group system [bləd gru:p sɪstəm]

ABO 血液群系, 血液型系: A, B 2つの抗原があるヒトの血液群系. これらは4つの血清群 A, B, AB, および O を生ずる. 抗原は, ムコペプチドでムコ多糖を含むが, 非還元末端基が異なる以外, このムコ多糖は両抗原に共通する. 血清群 A, B, AB, および O は, それぞれ A 抗原, B 抗原, AB 両抗原をもつもの, および AB 両抗原をもたない赤血球をもっている.

abortive infection [əbɔːrtɪv ɪnfɛkʃən] 不稔感染: ウイルス粒子が形成されないか, あるいは非感染性粒子を形成するウイルス感染.

abortive transduction [trænsdʌkʃən] 不稔形質導入: 細菌における形質導入の際に, 供与菌の DNA が受容菌染色体に組み込まれないような, 欠陥形質導入.

abrin [ˈæbrɪn] アブリン: 熱帯産 *Abrus precatorius* (トウアズキ) の種子に含まれる植物タンパク質.

動物およびヒトに対して有毒で, タンパク質合成を阻害し, 制がん作用をもつ.

abscisic acid* [æbsɪsɪk æsɪd] アブシジン酸: → dormin.

abscissa [æbsɪsə] 横軸: 直角座標における水平軸, あるいは x 軸.

absolute configuration [æbsəʊlɪt kənfigjəreɪʃən] 絶対的配置: ある分子の, 不斉炭素原子の周りにおける原子の実際の空間的配置.

absolute counting [kɑʊntɪŋ] 絶対計数: 試料中の全計数で, 試料中で起こる崩壊も含む. この計数は, 1 分間当りの崩壊数として表される.

absolute deviation [dɪːvi:ɛɪʃən] 絶対偏差: 実験値と真の値あるいは測定値中の最良値との差.

absolute plating efficiency [plɛɪtɪŋ ɪfɪjənsɪ] 絶対平板効率: 一定数の細胞を, ある培養基にプレート(平板散布)したとき, コロニー(colony)を生ずる細胞の百分率.

absolute reaction rates [rɪːækʃən reɪts] 絶対反応速度: → theory of absolute reaction rates.

absolute specificity [spēsəfisisəti] 絶対特異性：酵素の極度に高い特異性のことをいう。この酵素は1分子反応の場合には単一基質、2分子反応の場合には1対の基質との反応しか触媒しない。絶対基質特異性ともいう。

absolute temperature scale [tēmpərətʃər skeil] 絶対温度目盛：零点を絶対零度(−273°C)とした温度目盛。°T または °K と記す。温度は摂氏の日盛をとる。Kelvin 温度目盛ともいう。

absorbance [æbsɔrbəns] 吸光度：溶液の光吸収の尺度で、 $\log I_0/I$ で表す(ここで I_0 は入射光の強さ、 I は透過光の強さである)。光学密度ともいい、 A と略記。absorbancy ともいう。

absorbance index [indeks] 吸光度指標：→ absorbptivity.

absorbance unit [jūnit] 吸光単位：長さ1 cm の透過距離で測定したとき、吸光度1.0を示す溶液1 ml 中に含まれる吸光物質の量。

absorbancy [æbsɔrbənsi] 吸光度：absorbance の別綴。

absorbate [æbsɔrbeit] 被吸収物質：他の物質によって吸収される物質。

absorbed antiserum [æbsɔrbd æntisɪləm] 吸収抗血清：可溶性の抗原を加えて抗体を除いた抗血清。

absorbed dose [dous] 吸収線量：→ radiation absorbed dose.

absorbent [æbsɔrbənt] 1. 吸収剤：他の物質を吸収する物質；2. 吸収能の：吸収する能力をもった。

absorber [æbsɔrbər] 吸収剤：放射線を吸収するのに用いられる物質。

absorptiometer [æbsɔrptiəmɪtər] 吸収計：1. 液体に吸収されたガスの量を測定する装置；2. 平行なガラス板の間の液層の厚さを測定する装置；3. → colorimeter.

absorption [æbsɔrpʃən] 吸収：1. ある物質が別の物質を取り込むこと；2. 生体膜を物質が通過すること；3. 入射放射線(熱、電磁放射線、放射線を含む)のエネルギーのすべて、あるいはその一部が、それが通過する物質に移される過程；4. 溶性抗原を加えて混合物から抗体を取り除くこと。あるいは抗体を混合物に加えて溶性抗原を取り除くこと。

absorption band [bænd] 吸収帯：電磁スペクトルの一部分であるが、その部分で、ある分子が放射エネルギーを吸収する。

absorption cell [sel] 吸収セル：→ cuvette.

absorption coefficient [kəʊəfɪʃənt] 吸収係数：1.

Beer の法則における比例定数 ϵ 。 $A = \epsilon lc$ 。ここで、 A は吸光度、 l は光の透過距離、 c は濃度；2. Bunsen 吸収係数。1 気圧の下で、気体が液体と平衡状態にあるとき、液体の1容積に溶けるガス容積の量。ガス容積は、0°C、1 気圧で、そのガスが占める容積として計算される。Bunsen 溶解係数ともいう；3. 放射線のビームがある物質中を通過する際に強度が変化する速度。

absorption ratio [réiʃu] 吸収比：溶液中の化合物の吸光率と濃度の比。

absorption spectrum [spéktrəm] 吸収スペクトル：ある分子による光の吸収を、その光の振動数あるいは波長の関数としてプロットしたもの。

absorptive lipemia [æbsɔrptiv laipɪmiə] 吸収性脂肪血症：脂肪の摂取に伴う一時的脂肪血症。

absorptivity [æbsɔrptiviti] 吸光率： $A = \epsilon lc$ という Beer の法則における比例定数 ϵ 。 A は吸光度、 l は光路の長さ、 c は濃度。

abstraction [æbstrækʃən] 奪取：ある化合物から原子あるいは電子を除くこと。

Ac acetyl group アセチル基。

acanthocytosis [ækənθəsaitosis] 有棘赤血球(增多)症：1. 多数の突起をもつ球形赤血球を含む血液を特徴とする症状；2. → abetalipoproteinemia.

acatalasia [eikætəléisia] 無カタラーゼ症：ヒトの遺伝的代謝欠陥で、酵素カタラーゼを欠く。

acceleration [æksələreɪʃən] 加速(期)：発がんの1段階で、グッシュ説によると、促進因子タンパク質が合成され、それががん DNA からがん RNA の合成を促進する。

accelerator globulin [æksələreɪtər glɒbjəlɪn] 促進因子グロブリン：→ proaccelerin.

accelerator protein [próutin] 促進因子タンパク質：→ acceleration.

accelerin [æksələrin] アクセレリン：プロアクセレリンの活性型。これは血液凝固の過程で、プロトロンビンをトロンビンに変える。

acceptor control [æksəptər kəntról] 受容体調節：ミトコンドリアの呼吸速度のADP濃度への依存性。→ loose coupling, tight coupling.

acceptor-control ratio [réiʃu] 受容体調節比：ADPが存在するときの単位時間当りの酸素吸収で表す呼吸速度を、ADPが存在しないときの速度で割ったもの。無傷細胞あるいは分離ミトコンドリアで測定できる。

acceptor RNA 受容体RNA：→ transfer RNA.

acceptor site [sait] 受容点：→ aminoacyl site.

accessory pigment [æksəsəri pígmənt] 補助色素：

カロチノイドあるいはフィコビリンのような光合成色素で、主要光合成色素(クロロフィル)と協同して機能する。

AcCoA acetyl coenzyme A アセチル補酵素 A.

accumulation theory [ækju:mjələiʃən θiəri] 蓄積説：老齢化は有害物質の蓄積で起こるとする説。

accumulator organism [ækju:mjələitər ɔrgənizəm] 蓄積生物：特定の化学物質を大量に吸収し、保持できる生物。

ACD solution [sælúʃən] 酸-クエン酸-グルコース溶液：→ acid-citrate-dextrose solution.

acellular [eiseljələr] 無細胞性：細胞を含まない。

ACES *N*-(2-acetamido)-2-aminoethanesulfonic acid *N*-(2-アセトアミド)-2-アミノエタンスルホン酸：pH6.0~7.5の範囲の緩衝液の調製に用いられる。

acetal [æsitæl] アセタル：1分子のアルデヒドと2分子のアルコールから水分子を遊離して生ずる化合物。

acetate hypothesis [æsitet haipóthesis] 酢酸説：多くの錯体は、酢酸残基の頭-尾縮合を繰り返すことによってつくられる直鎖の変形であるとする仮説。典型的な変形としては、環形成、酸化およびアルキル化などがある。

acetate-replacing factor [-ripléisig fæktər] 酢酸置換因子：→ lipoic acid.

acetate thiokinase [θaioúkáineis] 酢酸チオキナーゼ：脂肪酸チオキナーゼで、2あるいは3炭素原子をもつ脂肪酸の脂肪アシル補酵素 A への反応を触媒する。

acetification [æsətifikéiʃən] 酢化：酒やビールのような飲物のエチルアルコールが、微生物による好氣的酸化のために、酢酸へ変化して飲用に適さなくなること。

acetoacetic acid [æsitəuəsi:tik æsid] アセト酢酸：アセチル補酵素 A から形成されるケトン体。ケトン酸。

acetogenin [æsitoudʒénin] アセトゲニン：酢酸残基あるいはその誘導体の頭-尾縮合によって形成される化合物。

acetoin [æsétouin] アセトイン：ブチレン-グリコール発酵の過程で、ブチレン-グリコールの空気酸化によって形成される化合物。

acetoin fermentation [færmentéiʃən] アセトイン発酵：→ butylene glycol fermentation.

acetone body [æsitðun bádi] アセトン体：→ ketone body.

acetone - butanol fermentation* [-bjútəndul færmentéiʃən] アセトン-ブタノール発酵：糖を

転化して主としてブタノールとアセトンを生成する発酵。 *Clostridium* のある菌種が行う。

acetonemia [æsitounimíə] アセトン血症：1. 血液中にアセトンが過量に存在すること；2. 血液中にケトン体が過量に存在する症状。

acetone powder [páudar] アセトン粉末：組織のアセトン抽出液から、真空濃過によってアセトンを除去することによって調製する。1種あるいは多種タンパク質の標品。酵素その他のタンパク質の分離、純化の過程において用いられる。

acetonuria [æsitounjúriə] アセトン尿症：1. 尿中に過量のアセトンが存在すること；2. 尿に過量のケトン体が存在する症状。

acetylation [æsətéléiʃən] アセチル化：アセチル基 $\text{CH}_3\text{CO}-$ を有機化合物に導入するアシル化反応。

acetylcholine [æsítəlkóulin] アセチルコリン：コリンのアセチル化物。アセチルコリンからコリンと酢酸を生ずる加水分解は、アセチルコリンエステラーゼによって触媒され、神経の刺激伝導における主要反応である。ACh と略記。

acetylcholinesterase [æsítəlkóulənéstəréis] アセチルコリンエステラーゼ：神経の刺激伝達中に、アセチルコリンをコリンと酢酸に加水分解する酵素。AChE と略記。true cholinesterase, choline esterase I, specific cholinesterase と書く。→ cholinesterase.

acetyl CoA [æsítəl kouéi] アセチル補酵素 A.

acetyl coenzyme A [kouénzaim] アセチル補酵素 A：補酵素 A のアセチル化物で、クエン酸回路、脂肪酸酸化、脂肪酸合成、あるいは他のいろいろな代謝における主要な中間体である。acetyl-S-CoA, acetyl-CoA, CoASAc, AcSCoA, AcCoA と略記。

acetyl coenzyme A carboxylase [kərbáksləéis] アセチル補酵素 A カルボキシラーゼ：アセチル補酵素 A と CO_2 からマロニル補酵素 A を合成する反応を触媒する酵素で、補欠分子族としてビオチンを含む。

acetylene [æsétəlin] アセチレン：1. 炭化水素 $\text{CH}=\text{CH}$ ；2. → alkyne.

acetyl group [gru:p] アセチル基：酢酸のアシル基 $\text{CH}_3\text{CO}-$.

***N*-acetylmuramic acid** [æsítəlmjú:rənik æsid] *N*-アセチルムラミン酸：酢酸、グルコサミン、および乳酸から合成される化合物で、細菌の細胞壁合成の主要構成物質である。

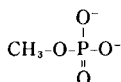
***N*-acetylneuraminic acid** [æsítəlnjú:rəminik] *N*-アセチルノイラミン酸：酢酸、マンノサミン、およびビルビン酸から合成される動物細胞膜の主要

構成成分, NANA, NAcneu と略記.

acetyl number [námbar] アセチル価: 脂肪中の水酸基数を表す尺度. アセチル化した脂肪 1 g に対して, その酢酸を中和するに要する水酸化カリウムの mg 数で表す.

acetylornithine cycle [əsítəlnrəθi:n saíkl] アセチルオルニチン回路: グルタミン酸と *N*-アセチルオルニチンからオルニチンを合成する際の主要代謝経路をつくる回路. 細菌や植物にみられる.

acetyl phosphate* [fásfeit] アセチルリン酸: 細菌が行う酢酸生成あるいはその利用の中間代謝物質で, 高エネルギーリン酸エステルの 1 種.



acetyl-S-CoA [-kouéi] アセチル補酵素 A.

***N*-acetylserine** [sé:rin] *N*-アセチルセリン: アセチル化されたセリン. これは, 細菌系の翻訳における *N*-ホルミルメチオニン機能のように, 哺乳動物細胞において, コード翻訳の開始に働いていると考えられる.

acetyltransferase [əsítəltrænsfərəis] アセチル基転移酵素: アセチル補酵素から他の化合物へのアセチル基の転移を触媒する酵素.

AcG accelerator globulin [glóðbjəlin] 促進因子グロブリン.

ACH acetylcholine アセチルコリン.

A chain [tʃein] A 鎖: 1. 21 個のアミノ酸と 1 個の鎖間ジスルフィド結合をもつインシュリンの 2 本のペプチド鎖のうちの短い方; 2. 免疫グロブリンの重(heavy, H)鎖.

ACH_E acetylcholinesterase アセチルコリンエステラーゼ.

achromic [eikróumik] 無色の.

achromic point [póint] 無色点: デンプンの加水分解過程において, ヨード添加で青色を呈しなくなった段階.

achromotrichia factor [eikróumətríjə fæktər] 毛髪色素欠乏(症)因子: → *p*-aminobenzoic acid.

achromycin [ækroumáisin] アクロマイシン: → tetracycline.

acid [æsid] 酸: → Bronsted acid, Lewis acid.

acidaminuria [æsidəminjú:riə] アミノ酸尿(症): → aminoaciduria.

acid anhydride [ænháidraid] 酸無水物: 2つのアシル基が 1 個の酸素原子に結合している化合物. 2つのアシル基が同じか, 異なるかによって, 単

純無水物あるいは混合無水物という. 生物物質では, 両無水物はしばしばホスホリル基(PO)を含む.

acid-base balance [-beis bæləns] 酸-塩基平衡: 生体内の緩衝系および各種体液の pH などに関して, 一定の内部環境を保つことに関連した反応系および因子群.

acid-base titration [táitríjən] 酸-塩基滴定: 酸あるいは塩基を一定溶液に加える滴定. 滴定量は液の pH 値あるいは指示薬によりきめる.

acid-citrate-dextrose solution [-sitreit-déks-trous səljú:ən] 酸-クエン酸-グルコース溶液: クエン酸, クエン酸ナトリウムおよびグルコースの水溶液. 血液の収集および貯蔵のさい, 抗凝固剤として用いられる.

acidemia [æsidímiə] 酸血症: 血中の水素イオン濃度が増加する特徴をもつ状態.

acid-fast [-fá:st] 抗酸性: 塩基性アエリン色素で染色したのが酢酸処理した場合, 脱色されにくいある種の細菌の, 脂肪含量の高い細胞壁についての表現.

acid hematin [hémətin] 酸ヘマチン: ヘモグロビンを pH 3 以下の酸で処理するとき形成されるヘマチン.

acidic [æsidik] 1. 酸の, 酸に関する; 2. 酸性の: pH 7.0 以下の溶液の性質.

acidic amino acid [əmi:nəu æsid] 酸性アミノ酸: 1 分子中に 1 つのアミノ基と 2 つのカルボキシル基をもつアミノ酸.

acidic dye [dai] 酸性色素: ⊕荷電した高分子に結合し, 染色する陰イオン性の色素. acidic stain という.

acidification of urine [æsidifíkíjən əv jú:rin] 尿の酸性化: 約 pH 7.4 の腎臓の糸球体濾液が, pH 4.8 のような低い pH をもつ尿に変わる過程.

acidimetry [æsidimítri] 酸滴定: 1. ある溶液の水素イオン濃度を, pH 変化を追いながら滴定する操作. 滴定をいつやめるかは水素イオン濃度によってきめる; 2. 標準アルカリ液を用いて酸の量を, 滴定により定量すること.

acid number [námbar] 酸価: 脂肪 1 g 中の遊離脂肪酸を中和するのに要する水酸化カリの mg 数.

acidolysis [æsidólisis] 酸加水分解: 酸を用いて加水分解すること.

acidophil [æsidoufáil] 好酸性(細胞): 酸性色素で染まる細胞.

acidosis [æsidóusis] 酸性(血)症, アシドーシス: 生体の酸-塩基平衡が偏り, 補償機構が乱されるために, 血液の pH が低下する症状. pH 変化の程度

は、補償機構の働きの度合いによるが、基本的には血液の重炭酸塩/炭酸比によると考えられる。→ metabolic acidosis, primary acidosis.

acidotic [æˈsɪdətɪk] 酸性(血)症の、酸性(血)症に関する。

acid phosphatase [fásfətèis] 酸性ホスファターゼ：活性の至適 pH が 7.0 以下のホスファターゼ。

aciduria [æˈsɪdːjúriə] 尿酸症：過度の酸性尿を排泄するという特徴をもつ症状。

cis-aconitic acid [æˈkənɪtɪk æsɪd] シスアコニット酸：クエン酸回路の 1 つの反応で、クエン酸から形成されるトリカルボン酸。

ACP acyl carrier protein アシル担体タンパク質。

acquired antibody [ækwáɪəd æntɪbɒdi] 獲得抗体：自然に存在する抗体と異なり、免疫反応によって作られる抗体。

acquired hemolytic anemia [hèməlɪtɪk ənɪmɪə] 獲得溶血性貧血：個体が自身の赤血球に対する抗体を形成する自己免疫病。

acquired immunity [ɪmjuːnɪti] 後天的免疫：動物が後天的に獲得した免疫。

acquired tolerance [tələrəns] 後天的寛容性：動物に抗原を注射して作られる免疫の寛容性。後天的寛容性は抗原が生体内に残存する間だけ存続する。

acrasin [æˈkreɪsɪn] アクラシン：環状 AMP と同義。細胞性粘菌の単細胞期の細胞が集合して多細胞体を形成させる誘引物質。細胞自身が分泌する。

acridine dye [æˈkrɪdɪn daɪ] アクリジン色素：DNA や RNA を染色するのに用いられる、平面構造をもつ異環化合物。この色素は、塩基性色素の 1 種で、核酸分子中に挿入され、塩基の挿入あるいは欠失を引き起こすので、突然変異誘導作用をもつ。

acridine orange [ˈsɪrɪndʒ] アクリジンオレンジ：核酸染色においては蛍光を発し、塩基の挿入、欠失による変異をもたらしアクリジン色素の 1 種。

acriflavin [æˈkrɪfléɪvɪn] アクリフラビン：アクリジン色素の 1 種。

acrolein test [ækróúliɪn test] アクロレイン試験：グリセロールの定性試験。重硫酸カリと加熱することによりグリセロールが脱水、酸化してアクロレインを生ずる反応を利用する。

acromegaly [ækrəumægəli] 先端巨大症：成長ホルモンの過剰生産のために起こる骨格構造の過剰成長を特徴とする。

acrosome [ákrasðəm] 先体：多くの動物の精子頭部の先端にある内部に顆粒をもつ胞状の細胞器官で、動物種により多様な形を示す。第 2 減数分裂後、ゴルジ体は多嚢を蓄積し、融合して 1 個の大きな先体前駆体(acroblast)となり、さらに核膜と

接着して先体に分化する。受精に際し重要な役割を果たす。

acrosome reaction* [rɪːæksən] 先体反応：精子が卵表面に達した時、卵由来の特定物質の作用で、先体先端の精子細胞膜が溶け先体膜と融合して開口を作り、先体内容物を放出する反応のこと。ウニの場合、この反応は、生卵がなくとも、卵海水など卵由来の物質が溶けている溶液中でも見られる。先体から出た物質は卵膜を溶解する作用がある。先体先端が開くすると、先体中央部にあるアクチンから成る先体膜が突出して卵膜と接合し、核物質が卵内へ入るのに役立つ。

acrylamide [ækrlɪæməɪd] アクリルアミド：→ polyacrylamide gel.

AcSCoA acetyl coenzyme A アセチル補酵素 A.

ACTH adrenocorticotrophic hormone 副腎皮質刺激ホルモン。

actidione [æktədaɪðun] アクチジオン：→ cycloheximide.

actin [æktɪn] アクチン：横紋筋線維の主要タンパク質。筋原線維の主成分。

actin filament [fɪləmənt] アクチンフィラメント：横紋筋の細線維で、主としてアクチンからなり、厚線維と互いに突起で交差連絡している。→ myofilament.

actinin [æktɪnɪn] アクチニン：横紋筋中の少量タンパク質。細線維を構成し、Z 膜および I 帯の中で濃縮されていると考えられている。 α -アクチニンと β -アクチニンの 2 成分が同定されている。

actinometer [æktənámɪtər] 化学光量計：一定の量子収量をもつ光化学反応を利用して、吸収光を測定する装置。

actinometry [æktənámɪtri] 化学光量測定：化学光量計を用いて行う化学分析法。

Actinomycetaceae [æktənəumáɪsɛtɪs] 放線菌類：分枝した糸状細胞や菌糸をつくる細菌。外部形態は糸状菌に似ているが、細胞内微細構造は細菌類と同様な原核型で真核型の糸状菌と異なる。細胞壁の成分も細菌の特徴をもつ。グラム陽性で土壤中に棲息するが動植物に寄生するものもある。あるものは、気中菌糸に分生子を作る。ストレプトマイシン、クロラムフェニコール、テトラサイクリンなど多くの抗生物質が放線菌から分離されている。

actinomycin D [æktənəumáɪsɪn] アクチノマイシン D：Streptomyces chrysomallus によって生産される抗生物質の 1 種で、DNA に結合することによって、DNA から RNA への転写を阻害する。また免疫抑制作用をもつ。actinomycin C1 と同じ

う。

action potential [ækʃən pəténjəl] 活動電位：刺激された膜に発生する膜電位。刺激によって膜の透過性が変化したとき、イオンの膜透過によって発生する。

action spectrum [spéktrəm] 作用スペクトル：光の波長を横軸にとり、異なる波長の光によって引き起こされる生物学的あるいは化学的反応を縦軸にとった定量的なプロット。細菌の死、突然変異の発生、蛍光の発生、光合成の効率などが反応の例である。

activated alumina [æktəvèitid əlúmina] 活性アルミナ：十分乾燥させたアルミナ。

activated complex [kámpleks] 活性化錯体：→ theory of absolute reaction rates.

activated form [fɔrm] 活性化型：→ active form.

activating enzyme [æktəvèitiŋ énzaim] 活性化酵素：1. → fatty acid thiokinase；2. → aminoacyl-tRNA synthetase.

activation [æktəvèiʃən] 活性化：1. ある化合物のより反応しやすい状態への変化。たとえば、アミノ酸のアミノアシル転移 RNA への変化、脂肪酸の脂肪酸アシル補酵素 A への変化、不活性酵素前駆状態の活性型酵素への変化などである；2. ある酵素反応の大きさあるいは速度、または両方の増大；3. クロマトグラフィー支持体の乾燥；4. 胞子の栄養細胞への変化の最初の段階。この段階は、しばしば胞子の加熱、あるいはその成熟によって引き起こされ、胞子の外膜の損傷が関係すると考えられている。

activation analysis [ənælisís] 放射化分析：試料中の化学元素を定性・定量するための分析法の1つで、試料をニュートロンあるいは他の粒子で衝撃する時に作られる放射性核種を同定、定量することを利用している。

activation energy [énərdʒi] 活性化エネルギー：活性化された複合体と反応物質間のエネルギーの差。このエネルギーが反応物質に供給されるとき化学変化を起こし、反応産物を生成しうる。

activation stage [steids] 活性化段階：血液凝固過程で、活性トロンビンを形成する段階。

activation-transformation model* [-trænsfərméiʃən mɔdəl] 活性化・転換モデル：脊椎動物の後生的発生における第1次誘導過程は、2つの経時的な相からなるというモデルで、オランダの Nieuwkoop が提案したもの。第1の相では中胚葉由来の非特異的因子が予定外胚葉を活性化するので、内的要因の活性化で前脳へ分化するよう決定される。第2の相では中胚葉から勾配性をも

った脊髄後方化誘導シグナルが、第1相で活性化された外胚葉に伝えられ、この後方化傾向と前の前脳化傾向の釣り合いによって領域的転換決定がもたらされる。

activator [æktəvèitə] 活性化因子、賦活物質：酵素の補欠因子として働く金属イオン。

activator constant [kánstənt] 活性因子定数、賦活物質定数：反応 $EA \rightleftharpoons E + A$ における平衡定数。E は酵素、A は活性因子。

active acetaldehyde [æktiv æsitældəhàid] 活性アセトアルデヒド：チアミンピロリン酸と結合したアセトアルデヒド、 α -ヒドロキシアルキルチアミンピロリン酸。

active acetate [æsiteit] 活性酢酸：→ acetyl CoA.

active acetyl [æsítal] 活性アセチル：1. acetyl CoA アセチル補酵素 A；2. acetyl lipoic acid アセチルリポ酸。

active acyl [æsil] 活性アシル：1. acyl CoA アシル補酵素 A；2. acyl lipoic acid アシルリポ酸。

active adenosyl [ədénasil] 活性アデノシル：→ adenosine-5'-triphosphate (adenosine-5'-triphosphate)。

active adenylate [ədánileit] 活性アデニル酸：→ adenosine-5'-triphosphate (adenosine-5'-triphosphate)。

active aldehyde [ældəhàid] 活性アルデヒド：チアミンピロリン酸に結合したアルデヒド分子、 α -ヒドロキシアルキルチアミンピロリン酸。

active aldehyde theory [θiəri] 活性アルデヒド説：食品の非酵素的な褐色化は、糖の脱水によって形成される非常に活性の高いアルデヒドが関与するとする説。

active amino acid [əminou ésid] 活性アミノ酸：1. → aminoacyl adenylate；2. → aminoacyl-tRNA；3. アミノ基転移反応によって形成されるようなアミノ酸の Schiff 塩基。

active anaphylaxis [ænəfələksis] 自動アナフィラキシー：動物に抗原を注射したときに起こる過敏症反応。

active carbohydrate [kârbouháidreit] 活性化炭水化物：1. UDP 糖；2. GDP 糖。

active carbon dioxide [kârbón daiúksaid] 活性化二酸化炭素：→ carboxybiotin.

active center [séntə] 活性中心：→ active site.

active concentration [kânsentréiʃən] 能動濃縮：→ active transport.

active form [fɔrm] 活性型：1. 高エネルギー化合物、あるいは反応または反応系を始動させる化合物として役立つ代謝産物の誘導体；2. 生物活性

をもつ高分子物質のエネルギーの高い形。

active formaldehyde [fɔrmældəhàid] 活性ホルムアルデヒド：→ active formyl.

active formate [fɔrmeit] 活性ギ酸：1. → active formyl；2. → active formimino.

active formimino [fɔrmimənou] 活性ホルムイミノ：テトラヒドロ葉酸に結合したホルムイミノ基 $\text{NH}=\text{CH}-$.

active formyl [fɔrmil] 活性ホルミル：テトラヒドロ葉酸に結合したホルミル基 $\text{O}=\text{CH}-$.

active fructose [fráktous] 活性化フルクトース：→ fructose-1,6-diphosphate.

active glycolaldehyde [gláikoulældəhàid] 活性グリコールアルデヒド：チアミンピロリン酸に結合したグリコールアルデヒド $\text{CH}_2\text{OH}-\text{CO}-$ 、 α 、 β -ジヒドロキシエチルチアミンピロリン酸。

active hydroxyethyl [hàidràksièthə] 活性ヒドロキシエチル：→ active acetaldehyde.

active hydroxymethyl [hàidràksimèthə] 活性ヒドロキシメチル：→ 5,10-methylene tetrahydrofolic acid.

active immunity [imjú:niti] 能動免疫：抗体を注射することによって動物が獲得する免疫。

active iodine [áiəðin] 活性ヨード：ヨードの活性型で、おそらくヨードイオン I^+ の形のヨード。甲状腺でチロシンと反応し、ヨードチロシンを作る。

active mediated transport [mí:dièitid trænsþɔrt] 能動担体輸送：1つあるいはそれ以上の輸送因子を必要とする能動輸送。

active methionine [meðáianin] 活性メチオニン：→ S-adenosylmethionine.

active methyl [méthə] 活性メチル：→ N⁵-methyl-tetrahydrofolic acid, serum folate または S-adenosylmethionine.

active patch [pæts] 作用部位：→ antibody combining site.

active phosphate [fásfeit] 活性リン酸：1. → adenosine triphosphate；2. → guanosine-5'-triphosphate.

active phospholipid [fàsfulipid] 活性リン脂質：リン脂質あるいはその1成分のシタジン-5'-二リン酸誘導体。

active pyrophosphate [pàirəfásfeit] 活性ピロリン酸：→ adenosine triphosphate.

active pyruvate [pairú:vəit] 活性ビルビン酸：チアミンピロリン酸と結合したビルビン酸分子。

active site [sait] 活性部位、活性点：1. 酵素分子中基質と結合して酵素-基質複合体を形成し反応し合う部位；2. 抗体が抗原と結合し、抗原抗体複

合体を形成し反応し合う部位。

active site-directed irreversible inhibitor [-dairéktid irivérsebl inhibítə] 活性中心不可逆阻害剤：ある酵素を不可逆的に阻害する合成阻害剤。このような阻害剤は、(a) 酵素の活性中心に結合するか、(b) 活性中心に接する無極性部位に結合するか、あるいは(c) 酵素の活性中心をアルキル化する。たとえば、塩化スルホニルのような一群、第1のものは、阻害剤を酵素の活性基に結合させ、第2の無極性基は、阻害剤のアルキル基を酵素の感受性部位と接触させる動きを、第3のものは、アルキル化することによって酵素を不可逆的に阻害する。

active sulfate [sálfeit] 活性硫酸：1. 3'-ホスホアデノシン-5'-ホスホ硫酸。アルコール性 OH 基およびフェノール性 OH 基で硫酸塩をエステル化する反応で、硫酸化剤として働く；2. アデノシン-5'-硫酸。3'-ホスホアデノシン-5'-ホスホ硫酸の合成における中間体で、*Desulfovibrio desulfuricans* においては、直接亜硫酸に還元される。

active translocation [trænsloukéijən] 能動輸送：active transport.

active transport [trænsþɔrt] 能動輸送：膜の内外の濃度勾配に逆って進行し、その際エネルギーの消費を伴う溶質の生体膜透過。

activity coefficient [æktiviti kòuəffɪənt] 活動度係数、活量係数：あるイオン活性の、そのモル濃度に対する比。活動度係数の対数は $-0.5 Z^2 \sqrt{I/2}$ に等しい。ここで Z はイオンの荷電に等しく、 $I/2$ はイオン強度を表す。→ mean activity coefficient.

actomyosin [æktəmáiəsin] アクトミオシン：アクチンとミオシンからなる複合体。両者とも筋肉から抽出あるいはこれらの純化製品から調製する。

acute porphyria [ækjút pɔrfiriə] 急性ポルフィリン症：短期急性症状で、過量のウロポルフィリン III、コプロポルフィリン III およびポルビリノゲンを排泄するのが特徴。

acute serum [sírəm] 鋭敏血清：ある病気の開始直後に採った血清。

acute test [test] 鋭敏試験：実験動物について行われる一種の毒性試験で、単一薬物の単一量を投与する必要がある。

acyclic [eisáiklik] 非環状の：→ aliphatic.

acylation [æsaléijən] アシル化：ある有機化合物にアシル基 $\text{RCO}-$ を導入すること。

acyl-carrier protein [æsil-kæriə próutin] アシル担体タンパク質：低分子量タンパク質で、脂肪酸合成酵素複合体の一部となり、脂肪酸合成では

アシル基の担体として働く。アシル基は、4'-ホスホパンテインの水硫基にチオエステルとして結合し、次いでエステル化され、アシル担体タンパク質のセリン残基になる。ACP と略記。

acyl enzyme [énzaim] アシル酵素：グリセリンアルデヒド-3-リン酸脱水素酵素によって触媒される反応の仮定的中間産物で、 NAD^+ とアシル化されたグリセリンアルデヒド-3-リン酸がこの酵素に結合されているとされる。

acylglycerol [æsilglisərɔʊl] アシルグリセロール：グリセリドの1種。モノ、ジ、トリ-アシルグリセロールは、それぞれ、モノ、ジ、トリ-グリセリドと呼ばれる。

acyl group [gru:p] アシル基($\text{RCO}-$)：有機酸のカルボキシル基からOH基が除去されたもの。

acyl-S-CoA acyl coenzyme A アシル補酵素A。

acyltransferase [æsiltrænsfərəis] アシル基転移酵素：アシル補酵素Aから他の化合物へのアシル基の転移を触媒する酵素。

ADA $N-(2-\text{acetamido})-\text{iminodiacetic acid}$ $N-(2-\text{アセトアミド})\text{-イミノ二酢酸}$ ：pH 5.8~7.4の範囲の緩衝液の調製に用いる。

Adamkiewicz reaction [ædəmkí:viz ri:kjən] アダムキーヴィッツ反応：タンパク質溶液を酢酸と硫酸で処理するとき、紫色を呈する反応。

Adam's catalyst [ædəmz kætəlist] アダムの触媒：酸化白金。水素添加反応の触媒。

adaptor hypothesis [ədæptər haipəðo:is] 受容体仮説：Crickが1958年に提出した仮説で、タンパク質合成において、アミノ酸はある特異的な受容体に結合し、リボソームに運ばれる。そこで、リボソームに結合しているmRNAのコードンと結合する。この仮定受容体は、現在では転移RNAであることがわかっていて、こうして、アミノ酸は伸長中のポリペプチドのそのアミノ酸に固有の位置にとりこまれる。

adapter RNA アダプターRNA：transfer RNA。

adaptive enzyme [ədæptiv énzaim] 適応酵素：→ inducible enzyme。

adaptor RNA [ədæptər] adapter RNAの別綴。

Addison's disease [ədisənz dizí:z] アジソン病：副腎機能低下による疾病。

addition polymer [ədɪʃən pələmə] 付加重合体：単量体の二重結合を開裂して、つぎつぎに重合体の成長点に単量体を付加して形成された重合体。

addition reaction [ri:kjən] 付加反応：炭素原子に結合する基の数を増やし、分子がより飽和されてゆく化学反応。

adduct [ədʌkt] 付加体：ある物質に他の物質が付加

されて形成された付加産物。

adductor muscle [ədʌktər mʌsl] 閉介筋：→ catch muscle。

adenine [ædənin] アデニン：6 アミノプリン。RNAおよびDNA中に存在する。Aと略記。

adenine nucleotide barrier [njú:klɪətəid bæriə] アデニンヌクレオチド障壁：→ atractyloside barrier。

adenohypophyseal [ædənouhaipəfisí:əl] (脳)下垂体腺の、(脳)下垂体前葉の、(脳)下垂体前葉に関する。

adenohypophysis [ædənouhaipəfísis] (脳)下垂体腺部：脳下垂体前葉で、副腎皮質刺激ホルモン、ゴナドトロピン、向脂肪ホルモン、ソマトトロピン、向甲状腺ホルモンなどを生産する。

adenoma [ædənómə] 腺腫：上皮組織の腫瘍で、一般的には良性。構成細胞は腺あるいは腺様構造を形成する。

adenosine [ədénəsin] アデノシン：アデニンのリボヌクレオシド。アデノシン一、二、および三リン酸は、それぞれAMP、ADPおよびATPと略記。これらの略記は、もし指示がなければ5'-ヌクレオチドリノ酸をいう。Ado, Aと略記。

adenosine-3',5'-cyclic monophosphate [-sàiklik mʌnəfəsfeit] アデノシン-3',5'-環状一リン酸：環状ヌクレオチドで、一般には環状AMPと呼ぶ。これは、アデニルシクラーゼの触媒作用によってATPから合成される。環状AMPは多種類のホルモンの第2のメッセンジャーとして機能し、それらの作用を仲介する。これらのホルモンは、アデニルシクラーゼ系と細胞膜中で相互作用し、その結果合成された細胞内環状AMPは、特異的な酵素あるいは細胞内成分と反応する。cAMPと略記。cyclic adenylic acidともいう。

adenosine diphosphate [daifəsfeit] アデノシン二リン酸：高エネルギー化合物のアデノシン-5'-二リン酸は、アデノシン-5'-一リン酸と無機リン酸に加水分解される。ADPと略記。

adenosine monophosphate アデノシン一リン酸：アデノシン-5'-一リン酸で、高エネルギー化合物ATPまたはADPの加水分解によってできる。AMPと略記。

adenosine-5'-phosphosulfate [-fəsfəsəlfait] 活性ホスホ硫酸：→ active sulfate(2)。

adenosine triphosphatase [traifəsətəis] アデノシン三リン酸分解酵素：ATPを加水分解し、ADPと無機リン酸あるいは、AMPとピロリン酸の生成を触媒する1つあるいは一群の酵素。この酵素は、広く生体膜に分布し、 Na^+ および K^+ イオ

ンの能動輸送に関係する。ATPaseと略記。→ Na, K-ATPase.

adenosine triphosphate [traifásfèit] アデノシン三リン酸：高エネルギー化合物アデノシン-5'-三リン酸で、多くの生化学反応系で働く。アデノシン-5'-三リン酸あるいはアデノシン-5'-二リン酸に加水分解される。この加水分解反応では、多量の自由エネルギーの遊離を伴い、このエネルギーは各種の代謝反応の駆動に用いられる。ATPと略記。

S-adenosylmethionine [æðənsilmeθáion:n] S-アデノシルメチオニン：高エネルギー化合物の1種で、ATPとメチオニンから合成され、生体中ではメチル供与体として働く。SAMと略記。

adenovirus [æðənováiras] アデノウイルス：裸の二十面体をなすウイルスで、二本鎖のDNAを含む。哺乳動物の呼吸器に感染し、ある種のものは発がん性をもつ。

adenovirus-associated virus [-æðúfiéitid váiras] アデノウイルス伴生ウイルス：小さく、裸で、二十面体の形をとり、一本鎖DNAを含んでいる。アデノウイルスと共存する特徴がある。

adenylate [æðónileit] アデニル酸塩：アデニル酸のリン酸基がエステル化され他の化合物となったもの。

adenylate control hypothesis [kəntról haipóθisis] アデニル酸調節説：細胞代謝は細胞内に存在するAMP、ADPおよびATPの相対量によって調節されているとする説。

adenylate cyclase [sáikleis] アデニル酸シクラーゼ：→adenyl cyclase.

adenylate kinase [káineis] アデニル酸キナーゼ：→myokinase.

adenylate pool [pu:l] アデニル酸プール：遊離AMP、ADPおよびATPの細胞内総量。

adenyl cyclase [æðnil sáikleis] アデニルシクラーゼ：ATPからピロリン酸を切り離し、環状AMPを合成する反応を触媒する酵素。

adenylic acid [æðnilík æsid] アデニル酸：アデニンのリボスクレオチド。

ADH 1. →alcohol dehydrogenase; 2. →anti-diuretic hormone.

adipocyte [æðɜpðusait] 脂肪細胞：脂肪組織細胞。

adipokinetic hormone [æðəpoukainétik hór-moun] 向脂肪ホルモン：→lipotropin.

adipose tissue [æðpðus tíʃu:] 脂肪組織：生体の脂肪組織。

adiposis [æðəpóusis] 脂肪症：生体中に脂肪が過剰

に蓄積する特徴をもつ症状。この場合、脂肪は部分的または全体的に蓄積する。

adiposity [æðəpðsiti] 脂肪蓄積：→obesity.

adjuvant [æðɜvənt] アジュバント：動物体に抗原とともに注射されたとき、その抗原に対する免疫反応を高める物質。

adjuvanticity [æðɜvəntisiti] アジュバンティシティー：ある物質のアジュバントとして働く能力。

ad libitum [æð libitəm] アドリビタム：実験動物に、何らの拘束なしに、自由に食餌させること。ad libともいう。

admix [ædmiks] アドミックス：ある物質を他の物質に混ぜること。

Ado adenosine アデノシン。

adoptive immunity [ədəptiv imjúniti] 獲得免疫：ある動物に他の動物のリンパ球を注射すると獲得される免疫。

adoptive tolerance [táðlərəns] 獲得寛容性：他の動物のリンパ球を注射することによって獲得される動物の免疫的寛容性。→tolerance.

ADP adenosine diphosphate アデノシン二リン酸。

ADPG ADP-glucose ADP-グルコース。

ADP-glucose [glú:kous] ADP-グルコース：スクレオシド二リン酸糖。植物におけるデンプン合成および細菌におけるα(1→4)グルカン合成におけるグルコース残基供与体。ADPGと略記。

ADR adrenaline アドレナリン：→epinephrine.

adrenal cortex [əðrínal kórteks] 副腎皮質：副腎の皮質ホルモン分泌部位で、中胚葉組織から発生する。

adrenal cortical hormone [kórtikəl hór-moun]

副腎皮質ホルモン：副腎から分泌されるステロイドホルモン。主成分は、糖代謝ホルモンコルチゾルおよびコルチコステロンと無機質コルチコイドアルドステロンであり、微量成分は性ホルモン。

adrenal cortical steroid [stéróid] 副腎皮質ステロイド：副腎皮質で生産されるステロイド。多くはホルモンで、糖代謝ホルモン、無機質コルチコイドおよび性ホルモンなどがある。しかしコレステロールのようにホルモンでないものもある。

adrenalectomy [əðrínaléktəmi] 副腎剔除(術)：副腎の外科的剔除。

adrenal gland [glænd] 副腎：腎臓の近くにある1対の内分泌腺で、エピネフリンおよびノルエピネフリンを分泌する髓と、副腎皮質ホルモンを分泌する皮質からなる。

adrenaline [əðrénəlin] アドレナリン：→epinephrin.

adrenaline tolerance test [táðlərəns test] アドレ